

決算説明資料
2022年3月期 第1四半期決算
(21/4-21/6)

2021年8月2日



JSR Corporation

中期経営方針（2021年3月26日発表）

<ビジョン>

- ・持続的（Sustainable）成長を目指し、すべてのステークホルダーに価値を創造する
- ・あらゆる環境変化に適応する強靱な（Resilient）組織をつくる

<事業ポートフォリオ>

- ・デジタルソリューション事業(DS。特に半導体材料事業)、ライフサイエンス事業(LS)をコア事業とする

<ターゲット>

- ・DS&LSで25/3期に過去最高益の更新、ROE 10%以上、ROICの最大化を目指す（DS25%以上、LS12%以上）
- ・資本配分は事業投資を最優先。株主還元は50%程度をガイドラインとする

<事業戦略>

■デジタルソリューション事業

- ・半導体材料:CAGR 8%以上(シリコンウエハー面積市場成長の倍)。M&Aを含めた事業規模・分野の拡大。
- ・ディスプレイ材料:選択と集中によるキャッシュカウ化、緩やかな利益成長。Iツジコ比ユーティングは売上成長加速。

■ライフサイエンス事業

- ・売上高 1,000億円超、ROS 20%を達成。
- ・CDMO, CRO中心としたパイプライン拡大による売上成長の加速。グループ全体のシナジー強化により持続的成長を実現。

■石化系事業（エラストマー事業、ABS事業）

- ・エラストマー事業の構造改革を推進。

決算のポイント

<2022年3月期第1四半期実績：コア営業利益は計画を上回って進捗>

- ・第1四半期は、コア営業利益126億円と年度見通し430億円（2021年5月公表）に対し高い進捗率となった。
- ・又、親会社帰属当期利益についても82億円と年度見通し270億円（同上）に対し高い進捗率となった。
- ・各事業セグメントが好調な実績となった。

<主要セグメントの状況>

- ・デジタルソリューション事業は、好調な需要環境の下、売上、利益とも対前年で大幅に伸長。高いマージンを確保した。
- ・半導体材料事業は、YoY+9%超の売上成長を達成。既存製品に加え、新規のEUVレジストも販売拡大した。
- ・ライフサイエンス事業は、YoY+30%の売上成長を達成。CDMO,CRO事業に加えバイオプロセス材料の販売拡大。

<通期見通し> *今回、通期予想値(2021年5月公表)からの修正は行っていない。

- ・2Q以降に向け半導体を始め好調な需要環境は継続する見通し。
- ・ライフサイエンス事業は、CDMOのパイプラインは順調に拡大し成長継続。来期の大幅増産に向けた立上げも推進中。

<エラストマー事業構造改革>

- ・2021年5月11日にエラストマー事業の事業譲渡契約を発表。今期より当事業を非継続事業へ分類。
- ・併せて早期退職優遇制度など合理化策も推進。

決算ハイライト 1 - 21Q1実績 実績vs計画

(億円)

		21Q1 Act	FY21 Pro	Progress
連結	売上収益	823	3,180	26%
	コア営業利益	126	430	29%
	営業利益	111	430	26%
	親会社所有者帰属利益	82	270	30%
デジタルソリューション	売上収益	393	1,600	25%
	コア営業利益	104	365	29%
ライフサイエンス	売上収益	163	670	24%
	コア営業利益	12	60	20%
合成樹脂	売上収益	238	860	28%
	コア営業利益	19	60	31%
その他・調整額	売上収益	29	50	59%
	コア営業利益	-9	-55	-
Exchange rate (JPY/USD)		109	106	

※コア営業利益は、営業利益から非経常的な要因により発生した損益(非経常項目)を除いて算出

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

- ・2021年5月発表の年度業績見通しに対して高い進捗率となった。
- ・デジタルソリューションは、半導体材料、ディスプレイ材料が好調に推移した。
- ・ライフサイエンス事業は、通期目標に対し順調に売上・利益を伸ばした。
- ・合成樹脂は、対面業界の需要回復により順調に推移した。

決算ハイライト 2 - YoY

(億円)

		20Q1	21Q1	YoY
連結	売上収益	675	823	+22%
	コア営業利益	80	126	+56%
	営業利益	80	111	+39%
	親会社所有者帰属利益	11	82	+624%
デジタルソリューション	売上収益	363	393	+8%
	コア営業利益	78	104	+34%
ライフサイエンス	売上収益	126	163	+30%
	コア営業利益	8	12	+44%
合成樹脂	売上収益	162	238	+47%
	コア営業利益	5	19	+272%
その他・調整額	売上収益	24	29	+23%
	コア営業利益	-11	-9	-

※親会社所有者帰属利益を除き継続事業のみ表示

YoY : 大幅な増収増益

デジタルソリューション : 半導体材料を中心とした売上増加により増収増益。

ライフサイエンス : CDMO、CRO、バイオプロセス材料、IVDの各事業の成長により増収増益。

合成樹脂 : コロナ影響からの需要回復を受け販売数量増加し、増収増益。

セグメント別損益：デジタルソリューション事業

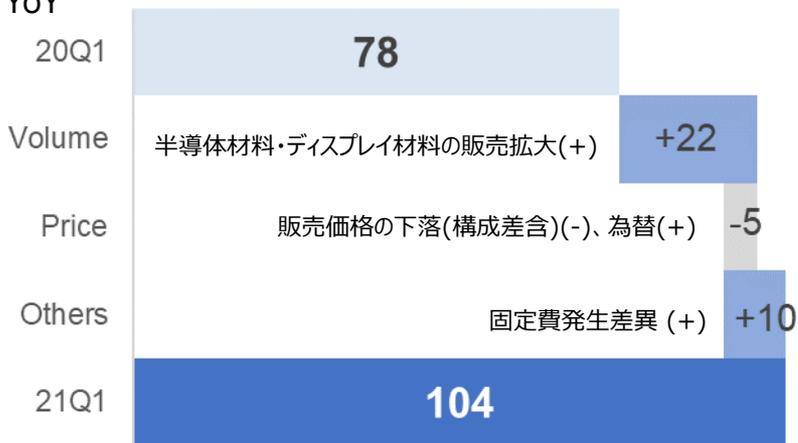
(億円)

	20Q1	21Q1	YoY	20Q4	21Q1	QoQ
売上収益	363	393	+8%	393	393	-0%
半導体材料	238	261	+9%	248	261	+5%
ディスプレイ材料	109	111	+2%	121	111	-8%
エッジコンピューティング	16	21	+31%	24	21	-12%
コア営業利益	78	104	+34%	79	104	+32%
コア営業利益率	21.4%	26.6%		20.1%	26.6%	

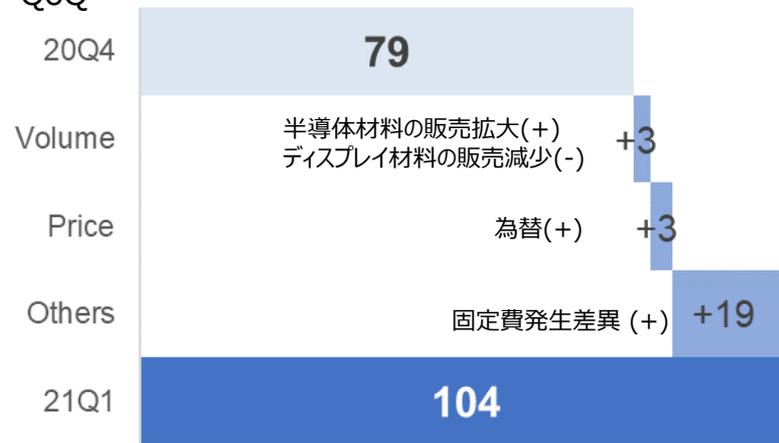
Exchange rate (JPY/USD)	108	109	+2%	106	109	+3%
-------------------------	-----	-----	-----	-----	-----	-----

コア営業利益差異分析(億円)

YoY



QoQ



Appendix : デジタルソリューション事業 主要製品売上推移

SEMI	YoY ytd	QoQ
ArF	微増	110%程度
多層材料	110%程度	110%程度
その他リソグラフィ材料	125%程度	110%弱
CMP材料	105%程度	105%程度
洗浄剤	85%強	横ばい
実装材料	115%程度	微減
Display	YoY ytd	QoQ
配向膜	115%程度	95%強
絶縁膜	125%程度	90%程度
着色レジスト	90%弱	微減
その他LCD材料	90%程度	横ばい
Edge	YoY ytd	QoQ
ARTON	135%程度	90%弱

セグメント別損益：ライフサイエンス事業

(億円)

	20Q1	21Q1	YoY	20Q4	21Q1	QoQ
売上収益	126	163	+30%	148	163	+10%
コア営業利益	8	12	+44%	6	12	+109%
コア営業利益率	6.5%	7.3%		3.8%	7.3%	
Exchange rate (JPY/USD)	108	109	+2%	106	109	+3%

コア営業利益差異分析

YoY 増収増益

CDMO、CRO、バイオプロセス材料、IVDの各事業で売上収益が拡大。
売上収益の拡大により増益。CDMOの次年度増産に向け固定費は増加。

QoQ 増収増益

CDMO、CRO、バイオプロセス材料で売上収益が拡大し、営業利益も増益となった。
CDMOは、米国コロナワクチン対応優先政策下における生産受託稼働減の影響を受けた（確実な改善中）。

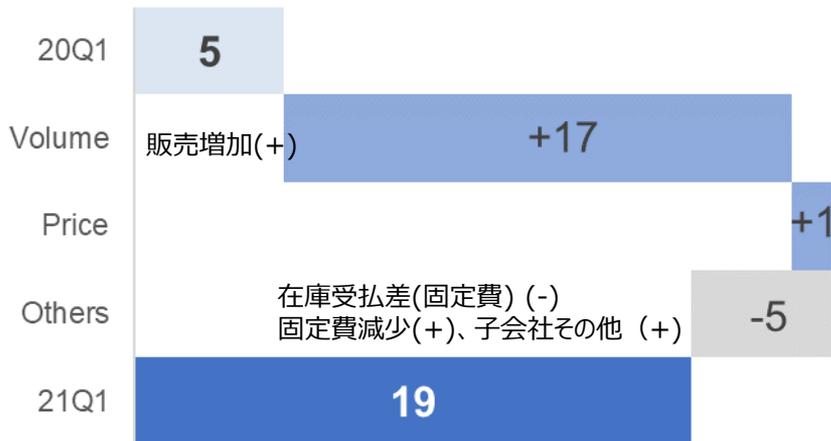
セグメント別損益：合成樹脂事業

(億円)

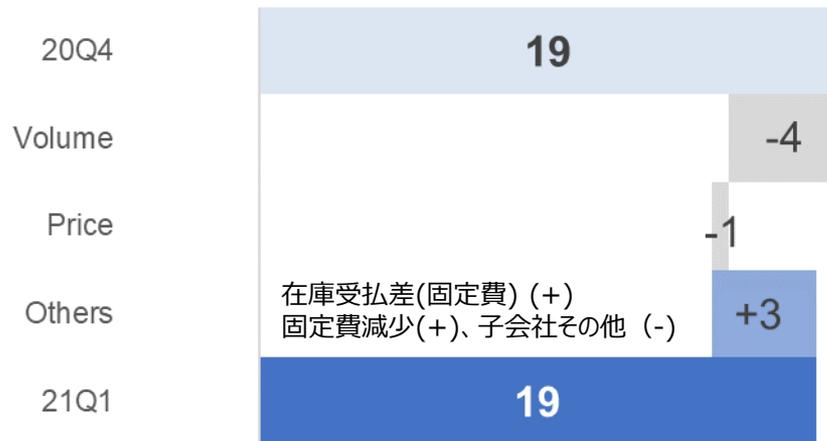
	20Q1	21Q1	YoY	20Q4	21Q1	QoQ
売上収益	162	238	+47%	241	238	-1%
コア営業利益	5	19	+272%	19	19	-4%
コア営業利益率	3.1%	7.8%		8.0%	7.8%	
Exchange rate (JPY/USD)	108	109	+2%	106	109	+3%

コア営業利益差異分析(億円)

YoY



QoQ



通期予想

<2021年5月11日改定値>

(億円)

		21Q1 Act	FY21 Pro
連結	売上収益	823	3,180
	コア営業利益	126	430
	営業利益	111	430
	親会社所有者帰属利益	82	270
デジタルソリューション	売上収益	393	1,600
	半導体材料	261	1,025
	ディスプレイ材料	111	450
	エッジコンピューティング	21	125
	コア営業利益	104	365
ライフサイエンス	売上収益	163	670
	コア営業利益	12	60
合成樹脂	売上収益	238	860
	コア営業利益	19	60
その他・調整額	売上収益	29	50
	コア営業利益	-9	-55

Exchange rate (JPY/USD)	109	106
-------------------------	-----	-----

減価償却費*	44	200
資本的支出	118	380
研究開発費	53	245

今後の見通し

■ デジタルソリューション事業

ー 半導体

半導体市場は約+20%、シリコンウエハー面積は+6~7%成長と市場見通しは当初想定を上振れ。当社材料も各材料で好調継続の見通し。

ー ディ스플레이材料

TV、PC向けなどフラットパネル市場は堅調に推移する見通し。韓台での事業再編は今期末で完了。中国向け販売は順調に拡大見通し。

ー エッジコンピューティング

需要環境は昨年比回復方向。新規採用へ向けた活動継続。

■ ライフサイエンス事業

売上成長につながる顧客パイプラインは順調に拡大。CDMOの資材調達は確実に改善。来期大幅増設に向けた立上げも今年度推進。

■ 合成樹脂事業

自動車需要の回復及び関連市況の上昇により堅調に推移する見通し。

*IFRS16号によるリース資産償却を含まず

※継続事業のみ表示

※親会社所有者帰属利益には非継続事業を含む

エラストマー事業構造改革

- ✓ 2021年5月11日にエラストマー事業のエネオス株式会社への事業譲渡を発表。事業譲渡の前提となる企業価値は1,150億円。又同日に持分法適用会社の錦湖ポリケム社株式のKumho Petrochemical. Co. Ltd.への売却を発表。全エラストマー事業を当社から分離することになり、エラストマー事業を会計上非継続事業へ分類した。
- ✓ 併せて事業構造改革も継続。早期優遇退職制度も実施済。その他収益改善策、又、自動車、タイヤ市場の回復もあり、1Q業績は順調に推移した。
- ✓ エラストマー事業譲渡については2022年4月1日のクロージングに向け、移管プロセスを進行中。

エラストマー事業からの損益内訳

(億円)

	20Q1 Act	21Q1 Act	FY21 Pro
売上収益	256	410	1,500
コア営業利益(相当)	-57	23	100
構造改革費用および税等	17	-20	
非継続事業からの当期利益	-40	3	

- ✓ 販売数量はYoYで+58%拡大。自動車及びタイヤ市場の回復。SSBRの伸長。
- ✓ コア営業利益(相当)は、上記数量効果に加え、販売価格の改定、スプレッドの改善、コスト削減の影響により増加。
- ✓ エラストマー事業譲渡契約に関わるコンサルティング、錦湖ポリケムの売却、資産分割、プロジェクト推進等の事業構造改革費用を計上。

事業構造改革・資本配分方針

21/3Eから21/6EへのBS変化

(億円)

	21/3E	21/6E	+/-
流動資産	3,293	2,285	-1,007
現金及び現金同等物	854	705	-149
その他	2,439	1,580	-859
非流動資産	3,435	2,936	-499
継続事業 小計	6,728	5,221	
売却目的保有に分類される処分グループに係る資産		1,619	+1,619
資産 合計	6,728	6,840	+112
社債及び借入金	1,193	740	-452
その他負債	1,828	1,291	-536
継続事業 小計	3,020	2,031	
売却目的保有に分類される処分グループに係る負債		1,065	+1,065
負債 合計	3,020	3,096	+76
親会社の所有者に帰属する持分	3,340	3,380	+40
非支配持分	367	364	-4
資本 合計	3,707	3,744	+37

21/3Eから21/6Eへの変化

(売却目的保有資産・負債金額を除く)

- ・ 資産合計 6,728億円→5,221億円
- ・ 負債合計 3,020億円→2,031億円
社債及び借入金 1,193億円→740億円
- ・ ネットデット 339億円→35億円
- ・ ネット D/Eレシオ 9%→1%

今後の非継続事業の手続き

- ・ エネオス社へ22/3E時点の資産、負債、及び非支配持分勘定を22/4に譲渡。当社の対価収入は譲渡時となる。
- ・ 別途21年7月に錦湖ポリケム社株式の売却は実施済。
(単体決算で132億円の売却益計上。)
- ・ その他関連する金融資産の売却も進める予定
(当該資産は継続事業に計上されている)

※継続、非継続両事業を表示

資本配分方針

1. M&Aを含めた成長のための事業投資（半導体材料、ライフサイエンス中心）
2. 事業投資に柔軟に対応できる強靱な財務ポジションの維持
3. 50%程度を目安とした株主還元

【APPENDIX】連結損益計算書

(億円)

	20Q1	21Q1	YoY
売上収益	675	823	+22%
売上原価	418	505	+21%
売上総利益	258	318	+23%
販管費	176	193	+9%
その他の営業収益/費用	0	-13	-4,859%
持分法による投資損益	-1	-1	-
営業利益	80	111	+39%
金融収支	-8	-1	-
法人所得税	21	27	+28%
継続事業からの当期利益	51	83	+62%
非継続事業からの当期利益	-40	3	-108%
当期利益	11	86	+654%
親会社所有者帰属	11	82	+624%
非支配持分	0	5	+2,528%

EPS(JPY)	5.25	37.98	+623%
EPS - 継続事業 (JPY)	23.05	35.26	+53%
EPS - 非継続事業 (JPY)	-17.8	2.72	-115%

Exchange rate (JPY/USD)	108	109	+2%
-------------------------	-----	-----	-----

コア営業利益から営業利益までの調整

	20Q1	21Q1
コア営業利益	80	126
子会社出資金評価損*		-14
営業利益	80	111

*MBLの100%子会社化に伴い、資産の一部を売却

【APPENDIX】連結財政状態計算書

	21/3E	21/6E	+/-	(億円)
流動資産	3,293	3,904	+611	
現金及び現金同等物	854	705	-149	
営業債権及びその他の債権	1,253	739	-514	
棚卸資産	1,049	751	-298	
その他	137	90	-47	
売却目的保有に分類される処分グループに係る資産		1,619	+1,619	
非流動資産	3,435	2,936	-499	
有形固定資産	1,704	1,419	-286	
のれん	586	588	+2	
その他の無形資産	150	135	-15	
その他	994	794	-200	
資産 合計	6,728	6,840	+112	
流動負債	1,688	2,093	+405	
営業債務及びその他の債務	1,008	606	-402	
借入金	379	202	-177	
その他	301	221	-81	
売却目的保有に分類される処分グループに係る負債		1,065	+1,065	
非流動負債	1,332	1,003	-329	
社債及び借入金	814	538	-276	
その他	518	465	-53	
負債 合計	3,020	3,096	+76	
親会社の所有者に帰属する持分	3,340	3,380	+40	
非支配持分	367	364	-4	
資本 合計	3,707	3,744	+37	

自己資本比率
(親会社所有者持分比率)
2021/6 E : 49.4%
2021/3 E : 49.6%

【APPENDIX】IRカレンダー

21Q2
決算発表

2021年11月8日
同日、金融機関向け説明会を実施予定

・本資料に記載されております業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。
実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。